



2003年6月15日灘で採集， 2003年6月14日灘で採集。

ミヤコドリは成貝でも殻長が1 cmほどの小型種です。殻はかなり薄く，白色半透明です。しかし，生きている時の貝殻には還元鉄が付着するため，茶褐色をしています（土屋：日

本近海産貝類図鑑）。1ページの個体の殻の表面はかなり傷んでおり，老成個体と考えられます。2ページの貝の表面には放射肋が認められます。このことと，殻頂が後端に位置するのも本種の特徴です。

1996年の世界自然保護基金日本委員会（WWF Japan）の報告では，全国的にみて危急種と位置付けられています。このランクは，環境省が従っている国際自然保護連合（IUCN）のランクの絶滅危惧II類に該当します。ミヤコドリは，大分県ではすでに絶滅危惧IA類に指定されており，同県では2ヶ所にしか生息していないとされています。兵庫県でも絶滅危惧のトップランクに位置付けられています。



2003年8月5日灘で採集。

本種は潮間帯とその上の飛沫帯のよどんだ水を好むとされていますが，浦戸湾では深浦から灘にかけての海岸で転石をめくるとかなり頻繁に見つかります。県内では，四万十川の河口域にも生息するとされています。

2004年12月1日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。